

石狩の遺跡

石狩（厚田区・浜益区を除く石狩市）には、200ヶ所余りの「遺跡」があります。遺跡というのは、主に大昔の人の生活の跡で、そこには当時使用した生活用具（土器や石器など）や家の跡やお墓などが残されています。主に大昔の人と言いましたが、最近では江戸時代や明治時代の生活の跡も遺跡と呼ぶこともあります。石狩市の場合、遺跡の90%以上は縄文時代、続縄文時代、擦文時代で、新しくても今から700年以上前の古い遺跡です。

次に各時代がどのくらい前か、あるいはどのくらい続いていたか、下表に示します。

標準的な年代（～年前）	時代名	石狩で確認された遺跡の時代 （遺跡名は代表的なもののみ）	
12,000	縄文時代	5,500	
			紅葉山49号 上花畔1
2,400	続縄文時代		紅葉山33号 八幡町
			北海道だけの時代名
1,400	擦文時代		紅葉山26号、49号
			北海道だけの時代名
800	アイヌ時代	200	紅葉山49号
			この時代名は未確定
100			



縄文式土器

各時代の土器

（いずれも石狩紅葉山49号遺跡から出土したもの）



続縄文式土器



擦文式土器

ここに示した時代名のうち、続縄文時代、擦文時代は本州では使用されていないものです。続縄文時代は、本州では弥生時代から古墳時代にあたり、擦文時代は奈良・平安時代に相当します。また時代名の縄文、続縄文、擦文は使用された土器の特徴から命名されたものです。ただしアイヌ時代については、鎌倉時代から明治時代までが該当しますが、この名称の使用については学界での統一の見解はありません。

（石橋孝夫）